



J-NETWORK
J-BLOODS
1月20日◎東京・ディファ有明

自戒の熱闘中の

事実。ダメージの有無がハッキリと見えてくるからだ。その意味で蔵満や大宮司がそれぞれ所有する痛みや辛さのエレベーターは、その動きが外から丸見えの状態で激しく昇り降りしていた。大宮司が「ヒジ打ちが効いた」と素直に認める一方で、蔵満が「ローでダメージを受けた」と吐露するのも頷ける。にもかかわらず勝負がつかなかったのは、お互い諦めるか否かのポーターで踏みとどまったからにほかならない。土壇場で妥協しないだけの気持ちの強さだけは持ち合わせていたのだ。無理もない。大宮司は蔵満をさっさと倒してコンバット2002で「60+クラスで日本一」と認める増田博正に挑む青写真を立てていた。一方の蔵満は、バリッヤーと闘った男、という冠以外、これといった実績はなし。2年前の11月、全日本キックのリングで大宮司と初対決した時にはキャリア不足を露呈して敗れ去っている。

○テールリッノイは頭を相手の顎関節に押し込み、ロックからのヒザ取りで井上哲を攻略。結局、4Rにスタンディングダウンを奪って大差の判定勝ちを収めた。積極的に他団体のリングへ上がり続ける新選手の大塚左近(全生)は、食本武蔵(アクトイブJ)のミドルやハイに苦しみながらも、ボディーへ集中攻撃を見せて3-0の判定勝ち。自分がリングへ上がることで新選手のアピールにつながれば。



○チームドラゴン期待の精彩洋拳(左)は、アクティブJの善入(右)と3回戦で激突。初回に先制のダウンを奪ったものの、2Rにヒザでダウンを奪い返され、劣勢に。結局2-0で判定負けを喫した。ヒザを打たれたからといって背を向けたらいけない。



●セミ/日本・タイ国際戦/65歳契約3分5R(第10試合)
○タイ国・ラジャダムナン・Jライト級王者
○テールリッノイ・SKVジム(タイ、64.75歳、24歳)
(判定 3-0)※採点=50:45,50:44,50:45
●井上 哲(山本ジム所属、64.15歳、34歳)
(MAライト級王者)



●セミ/日本・タイ国際戦/67歳契約3分5R(第9試合)
○タイ国・ルンビニー・Jウェルター級王者
○チョークディー・ポーブラムック(タイ、64.35歳、20歳)
(判定 3-0)※採点=50:49,50:49,50:49
●加藤賢朗(Phoenix所属、66.55歳、23歳)
(WMTAサウスパシフィック・Sライト級王者)



○J-NETキラーとして知られるMAの泉雄策(山本・右)はサバイイ町田の稲葉潤に2-1で惨敗。同団体のリングで初黒星を喫した。稲葉は「和製ムンボーン」と形容したいヒザの選手
○全日本フェザー級2位のYUTAKA(奥・月心会)はJ-NET同級王者の瀧林幹(JMTC)を右ストレートで下して、1R2分34秒TKO勝ち。交流戦を制した

そこで戦前は大宮司が有利と予想する輩が多かったが、ジムでタイ人と寝食をともにしながら技術を学んだことで、蔵満は変身。以前と比べたら見違えるほどヒザの打ち方がうまい選手に成長した。蔵満の変身ぶりを聞きつけた大宮司は「だったらヒザで打ち合って勝ってもいい」と不敵に挑発したが、意外にも勝負がお互い得意技であるはずのヒザ蹴り合戦になることはなかった。意識しすぎてしまったのだろうか、それともそんな余裕はなかったのだろうか。控室でお互い浮かぬ顔だったのは、それだけ高いレベルの試合を求めている裏返し。自戒の中の熱闘は必ずや明日の糧になる。

(布施)